



奥沢ココロン第50号発行



広報紙をつくる・・・ひと口に言っても集まったメンバーは最初はどうしているのかわかりません。

まずは入れ物を作ってから中身を考えよう、と当時三軒茶屋にあった世田谷区社協の事務所におられる「ココロン」のイラストのことに詳しい方をお訪ねして、今も使っている本紙のタイトル部分の作り方を教えていただきました。

地色をピンクに、というよりは当時色刷りなどはできなかったのでピンクの紙にモノクロの印刷をするほかなく、用紙の問屋に紙を買いに行き出張所の印刷機で印刷、それをみんなで折ったり仕訳をして発送をする・・・、学級新聞の発行ではありません。1,000枚を超える紙の山と格闘すること数時間。2015年にネット印刷を頼んでカラー化するまでは発行するたびに少なくない労力を必要としていました。



2007.10.ココロン椅子設置 現在 25か所 25か所 48脚

2007年に設立された奥沢地区社会福祉協議会は発足と同時に地域の皆さんに私たちのことを知っていただくことを目的に広報紙「おくさわココロン」を創刊しました。以来、1年に3回の発行を休むことなくつづけることができ、本号で50回目を迎えました。創刊からこれまでの道のりを振り返ってみましょう。



技術的にも未熟なまま作成した創刊号表紙



設立時会長 故石井一正氏

地区社協設立準備会場で、東玉川町会の石井一正会長、奥沢交和会の折居俊武副会長(いずれも当時)を中心に、地域の皆さまの“自治意識”の深さと“おくさわ愛”に溢れる活発な議論に触れ、これこそ住民主体による地域福祉だと感じました。その時のパワーそのままに広報紙『おくさわココロン』が創刊50号を迎えられましたこと、本当におめでとうございます！

また、「小学生福祉体験見学会」も深く印象に残っています。都立障害者総合スポーツセンターに出向き、パラスポーツ体験等を通じて障害の有無を超えた自己実現の大切さを学び“次代のおくさわ”を担う子供達を育む大切な事業だと思います。奥沢地区を担当させていただいたことは、私の誇りです。

世田谷区社会福祉協議会地域社協課長 金安博明 (設立時奥沢地区担当職員)



2007年3月、奥沢地区社協発足と同時に「おくさわココロン」も発行が始まりました。

17年かけて50号を迎え、携わったひとりとして感慨深いものがあります。「おくさわココロン」を振り返ると変わらないことが三つあります。

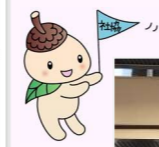
- 1.当初からピンク色の用紙を使って目立つ
- 2.社協活動のお知らせのほか地区の様々な情報も添えて地区情報紙の色彩も持っている
- 3.記事は地区委員を中心に原稿を自分で書いたりお願いして書いてもらって集めたりの手づくり、そして印刷前の編集作業は一貫して山本厚子委員が担当していることです。ありがとう。

これらが「おくさわココロン」の礎になっていると思います。コロナ禍を乗り切りこの先社協活動は再び活発になるでしょう。ココロン発行は骨の折れる作業ですが、奥沢社協推進委員全員で手づくりを続けましょう。

奥沢地区社会福祉協議会前会長 近造迪夫



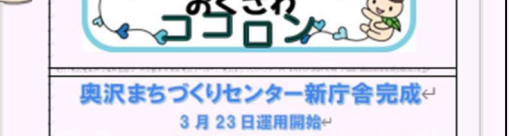
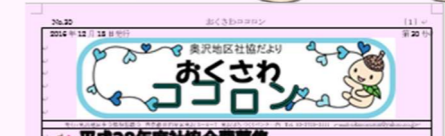
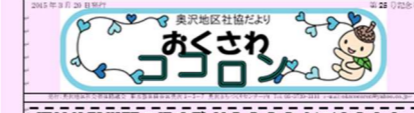
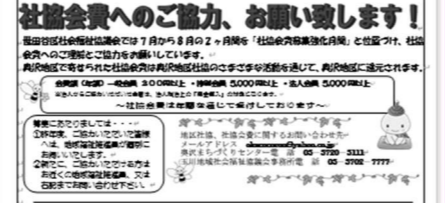
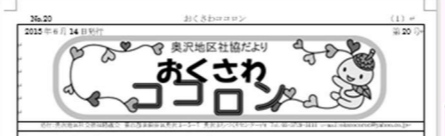
第10号表紙-レイアウト作成にはかなり習熟したがモノクロ・・・



2008.3. 東京都障害者スポーツセンター見学会スタート



機会あるごとに地区社協のPR活動を行なっています



40号表紙「云うは易し・・・」

当初は「社協って何？」という声もありました。「50号」に達した本紙を通してご理解もいただけたかと思えます。

全世界を一変させた、コロナ禍も落ち着きましたが、困り事は尽きません。人を繋ぎ、支え合う活動をこれからも「おくさわココロン」で伝えていきたいものです。山本編集長、委員の皆様にご心より感謝です。

次は「100号」に向けて頑張ろう！
奥沢地区社会福祉協議会現会長 小林喜美江



2007.12. インボディ測定会スタート
測定参加者累計 4,512名(2016年12月時点)

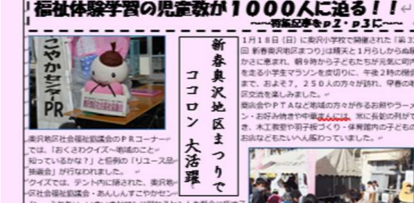


2016.5. 熊本地震被災地支援



2011.5. 東日本大震災復興支援金募金活動実施

第20号表紙-やっとな word の操作にもなれてきたかも・・・



25号からカラー化！

30号表紙「写真を多用」が課題



2007.9. 地区社協研修会スタート